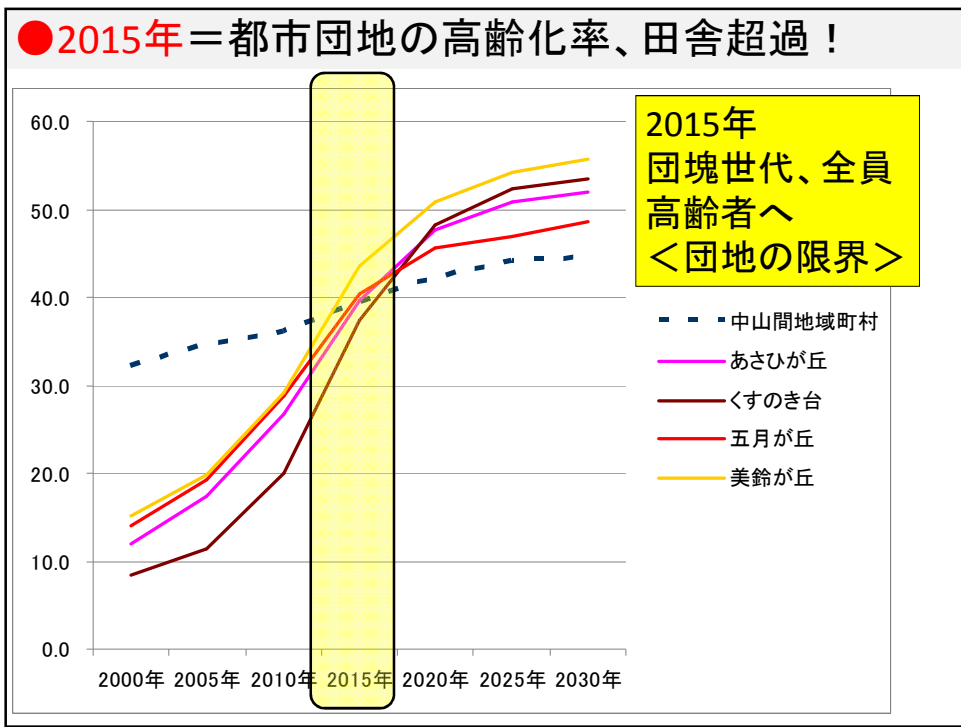
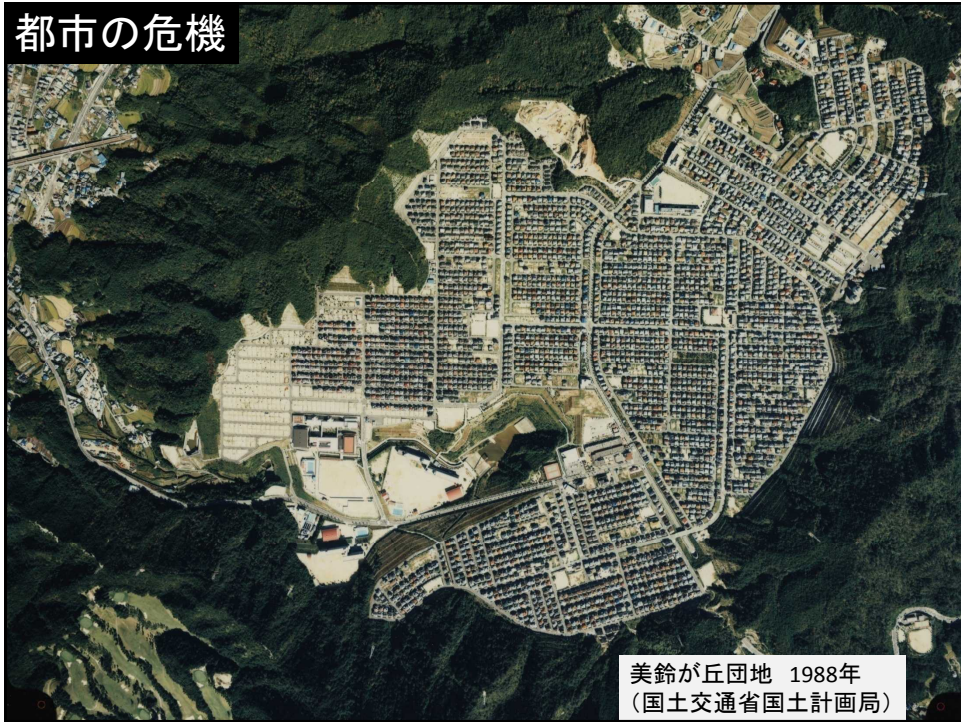


都市の危機



国土の危機

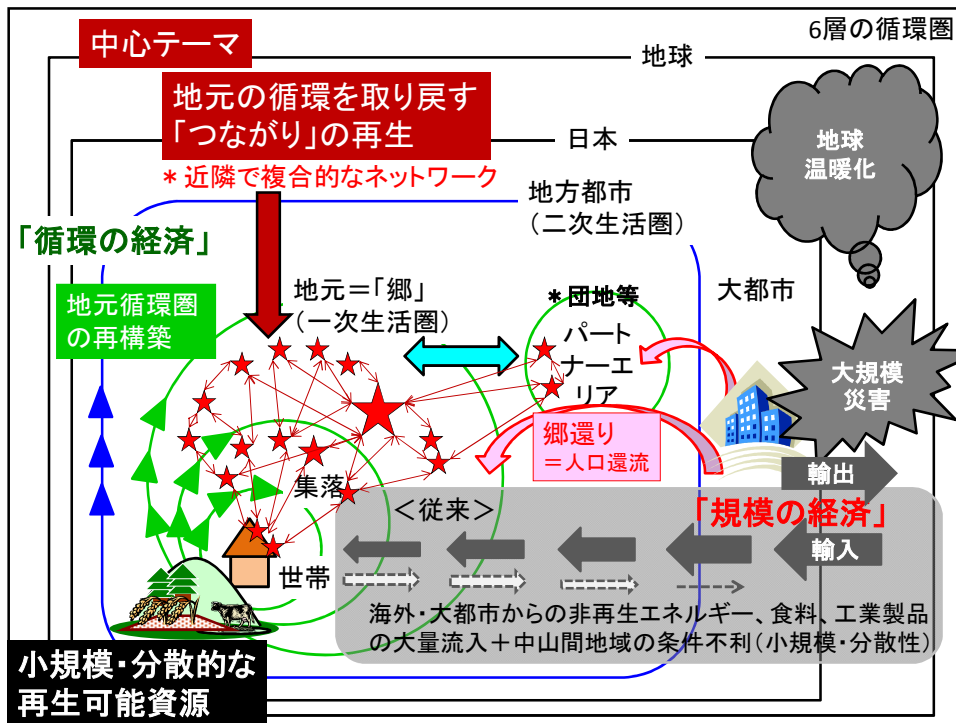


平成23年3月11日 東日本大震災

南海トラフ巨大地震の危険性



太平洋側壊滅の恐れも→山陰の重要性

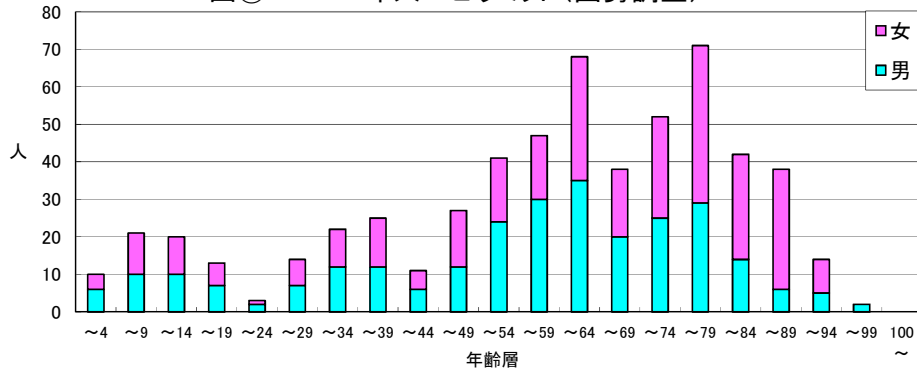


毎年何人のU&Iターンが必要？

毎年各1組
 30代前半子連れ夫婦
 20代前半男女、60代前半夫婦
 の計7人
 流入増で変わる地域の未来

1. 現在の年齢構成

図③ 2010年人口ピラミッド(国勢調査)



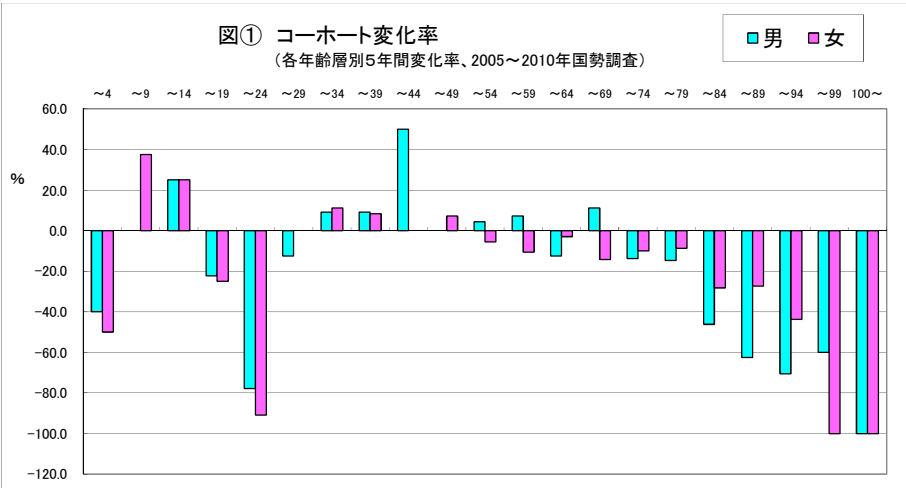
人口579人、高齢化率44%
の基礎的な生活圏(益田市二条地区)

2. 年齢階層別の人口増減(流出入)率

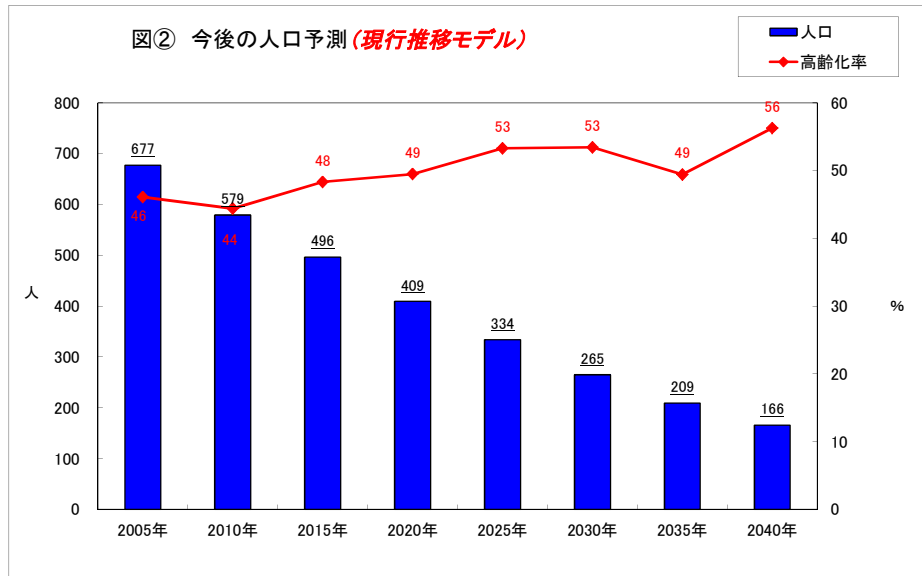
* 5年前の5歳若い集団との比較

図① コーホート変化率

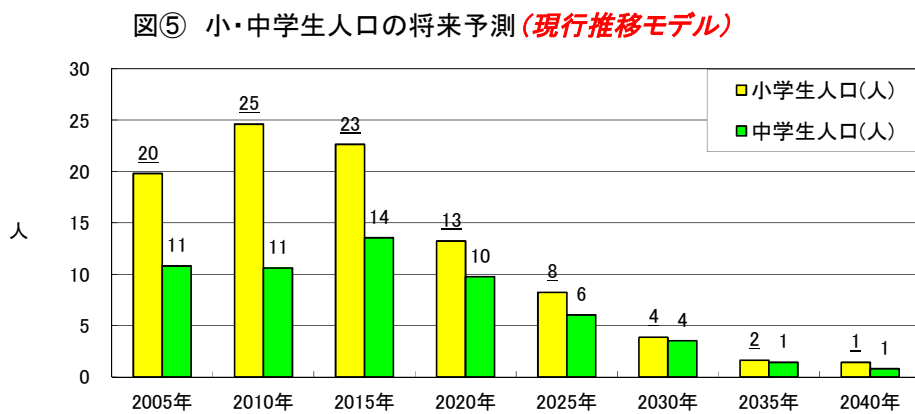
(各年齢階層別5年間変化率、2005~2010年国勢調査)



3. 現状推移シナリオ(2005～2010年動態が継続)

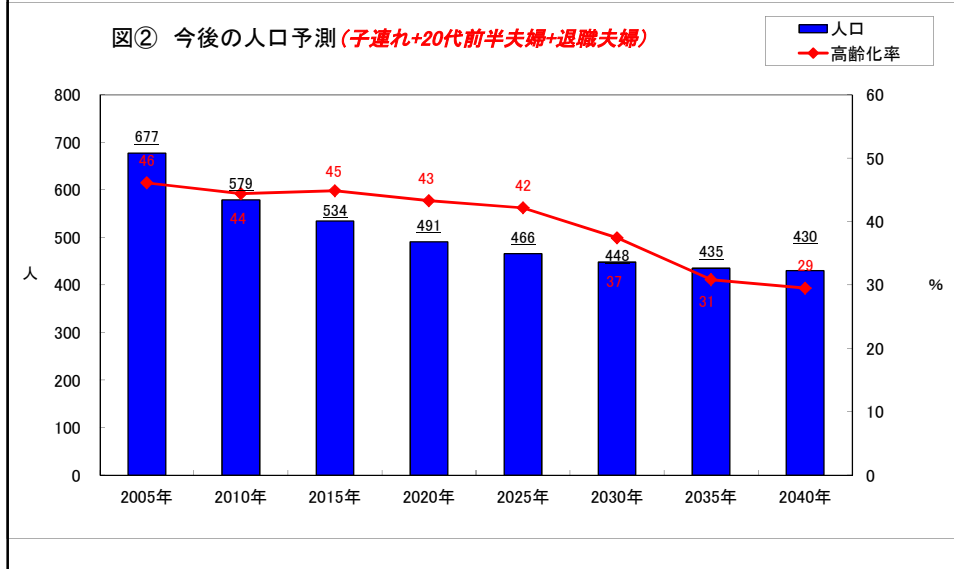


4. 小・中学生の人口予測(現状推移シナリオ)

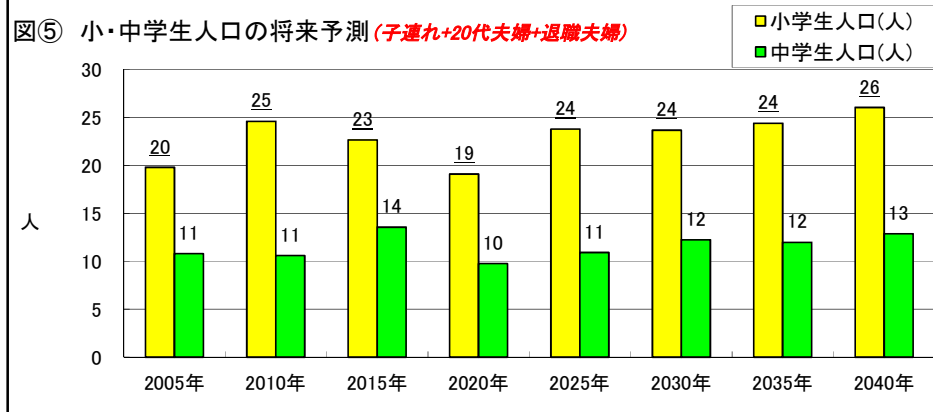


5. U&Iターン増加シナリオ

●想定条件=30代前半夫婦(4歳以下の子供)と20代および60代前半男女が毎年、各1組流入増加



6. 小・中学生の人口予測(U&Iターン増加シナリオ)



自治体の人口定住プラン (益田市試作)

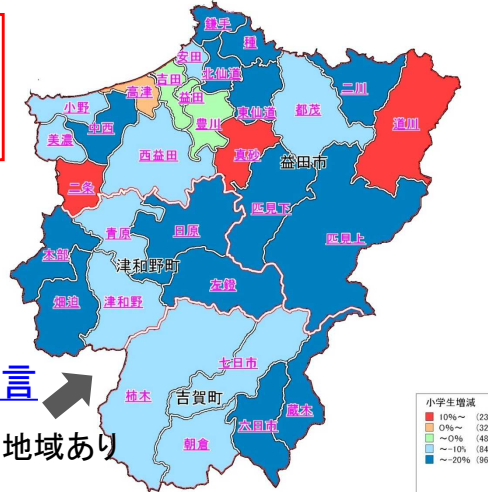
危機:このまま行くと
人口減少・高齢化・少子化
が止まらない!



行動:各地区で毎年1~3
組の定住増加を実現

この10年間で先着5,000名宣言

山間部でも小学生を増やしている地域あり
(2005~2010年国勢調査)



● 未来人口シナリオ1 「このまま現状で推移すれば、、、」

地区名	2010 人口	2010 高齢化率	2010 小学生	2020 人口	2020 高齢化率	2020 小学生数
鎌手	1,836	35.8	67	1,486	46.7	63
種	318	40.9	11	251	49.3	5
小野	1,738	37.7	83	1,412	48.6	51
真砂	408	45.6	20	309	52.0	15
西益田	4,281	33.6	206	3,707	42.9	205
中西	2,092	31.4	104	1,863	38.1	106
都茂	1,083	42.3	46	851	54.4	30
東仙道	917	35.0	52	711	42.9	28
二条	579	44.4	25	409	49.5	13
二川	254	46.1	13	174	53.2	2
美濃	372	44.9	14	296	51.9	12
匹見下	311	67.2	4	231	69.3	5
匹見上	906	53.3	34	695	58.2	18
豊川	925	30.9	65	734	41.4	23
北仙道	526	39.5	17	425	47.8	20
道川	167	52.1	5	143	50.4	4
安田	4,172	28.8	229	3,699	42.2	182
益田	6,310	25.8	387	5,519	30.9	263
吉田	13,858	26.6	742	13,314	32.6	727
高津	8,897	29.5	544	7,811	37.8	411
合計・平均	49,950	39.6	2,668	44,040	47.0	2,183

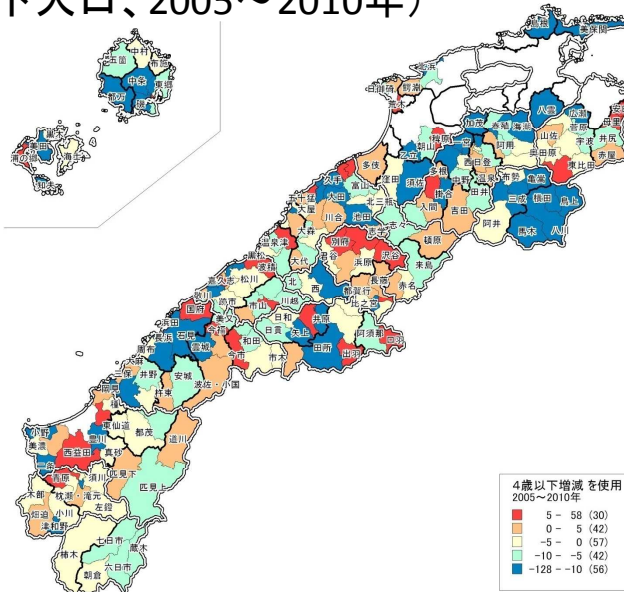
人口5千人減、高齢化率50%近、小学生500人減

● 未来人口シナリオ2 「毎年207組・483人の定住増加を実現！」

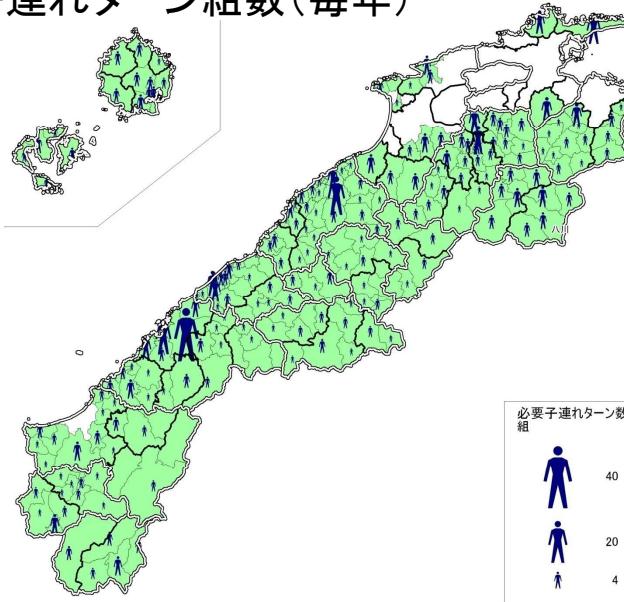
■ 人口5万人超、高齢化率40%未満、小学生維持

地区名	子連れ ターン 増加組 数	若者ター ン増加組 数	定年帰郷 増加組数	2020改善 人口	2020改善 高齢化率	2020改善 小学生数
鎌手	2	2	2	1,652	43.2	76
種	1	1	1	334	39.9	12
小野	3	3	3	1,662	43.1	68
真砂	1	1	1	398	42.8	22
西益田	5	5	5	4,170	39.6	240
中西	2	2	2	2,037	35.8	121
都茂	2	2	2	1,007	48.0	41
東仙道	3	3	3	961	34.8	44
二条	1	1	1	491	43.3	19
二川	1	1	1	273	37.9	5
美濃	1	1	1	384	42.5	19
匹見下	1	1	1	368	46.7	23
匹見上	2	2	2	860	49.6	31
豊川	3	3	3	980	34.0	40
北仙道	1	1	1	509	41.7	26
道川	1	1	1	267	30.5	8
安田	7	7	7	4,281	38.1	220
益田	11	11	11	6,427	28.1	317
吉田	7	7	7	13,942	31.6	763
高津	14	14	14	9,010	34.3	493
合計・平均	69	69	69	50,013	39.3	2,588

全県定住カルテ・マップ分析 ②子ども数増減率
(＜4歳以下人口、2005～2010年)



全県定住カルテ・マップ分析
③必要子連れターン組数(毎年)



定住人口カルテによる2005年、2010年、2020年比較

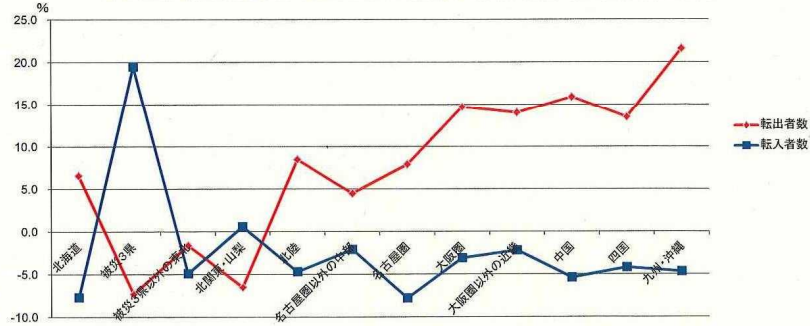
中山間 226 地区 *激増1 地区を除く	平均世帯 数	平均人 口	人口 増減 率	平均 高齢率	平均小学 生数	子連れ& 若者&定 年ターン 必要増加 数(平均)
2005	518戸	1471人		36.5%	77人	年間2.4 組・15人 増 (年間 542組増 加)
2010	504戸	1370人	-6.9%	38.4%	66人	
2020 (予測)		1150人	- 16.0%	43.0%	51人	

島根県中山間地域全体で、年間542組、3794人の増加が必要＝首都圏人口3,562万人のおよそ1万分の1

東京圏から西日本への人口の流れ

- 東日本大震災の前後1年間における東京圏と各地域との間の転出者数・転入者数を比較すると、震災後には、西日本への転出者数が増加し、西日本からの転入者数が減少。
- その傾向は、大阪圏・名古屋圏といった大都市圏のみならず、中四国・九州・沖縄といった地方圏にも顕著に見られる。

東日本大震災の前後1年間における東京圏の転出者数・転入者数の増減率



注1: 震災前(平成22年3月～平成23年2月)と震災後(平成23年3月～平成24年2月)における東京圏と各地域との間の転出者数、転入者数の増減率を表示したもの。
 注2: 被災3県(岩手、宮城、福島)、被災3県以外の東北(青森、秋田、山形、新潟)、北陸(富山、石川、福井)、名古屋圏以外の中部(長野、静岡)、名古屋圏(岐阜、愛知、三重)、大阪圏(京都、大阪、兵庫、奈良)、大阪圏以外の近畿(滋賀、和歌山)
 資料)総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告 東日本大震災の人口移動への影響」(平成24年3月)より国土政策局作成

手打ちパスタ



伝統チーズ



イタリア山村の豊かな生業

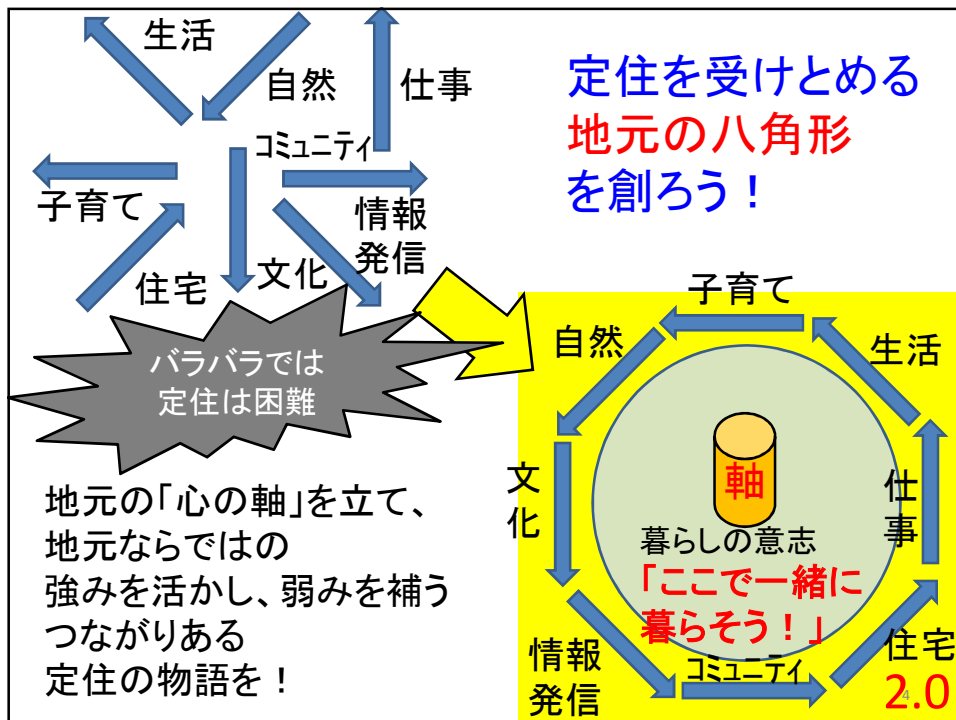
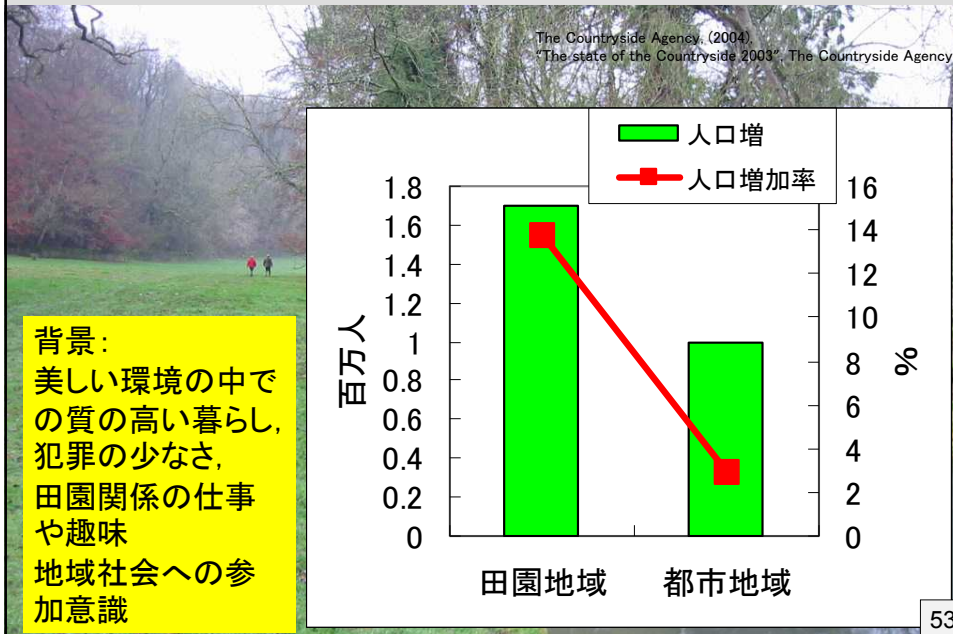


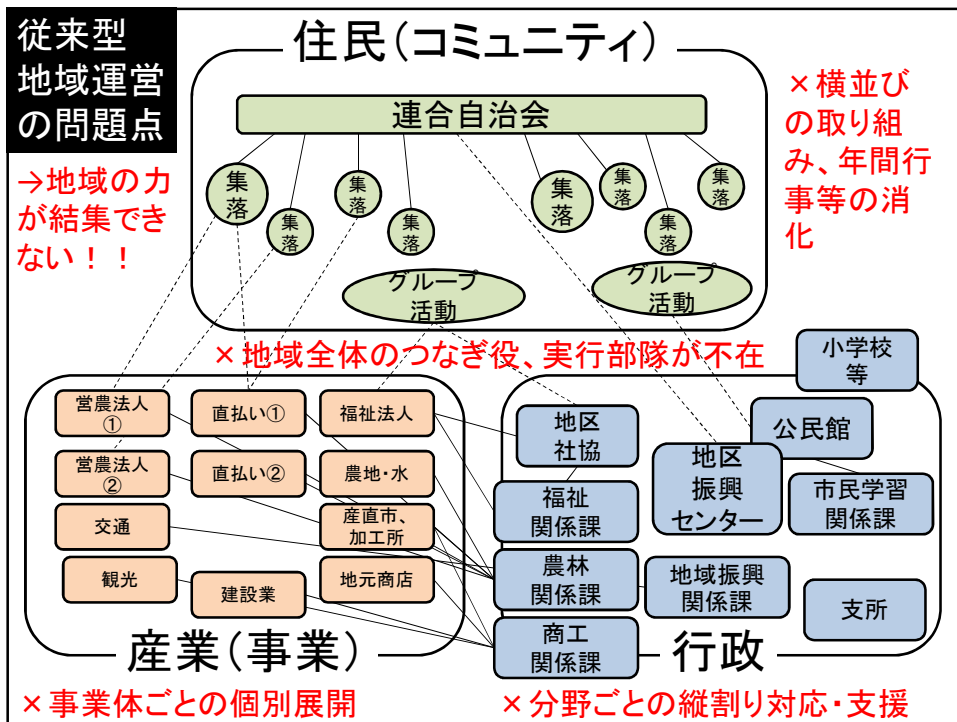
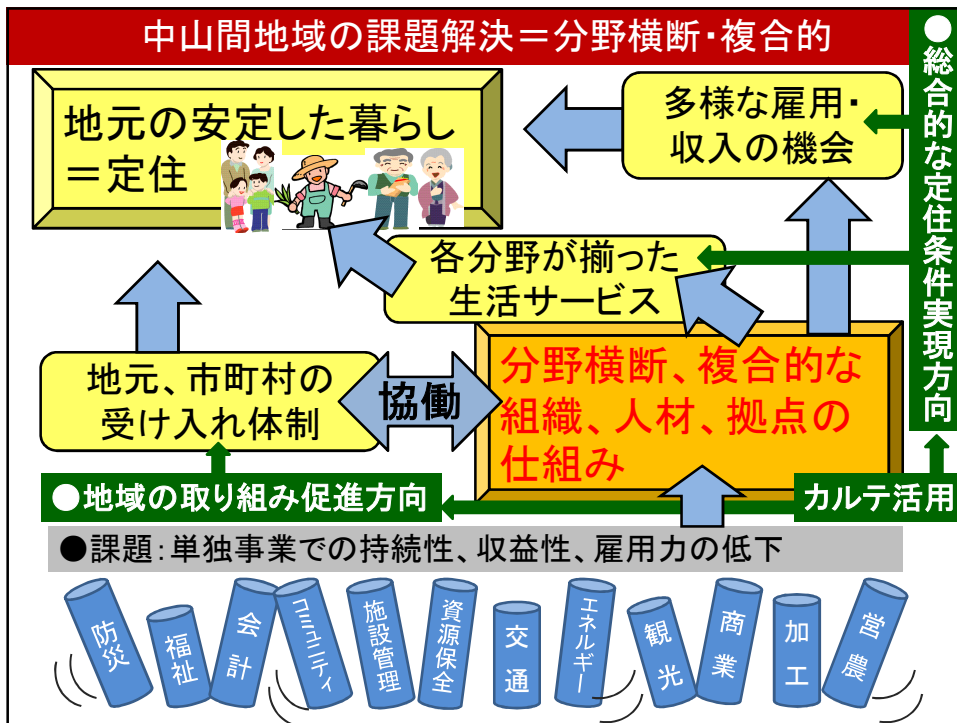
建具も地元の職人が

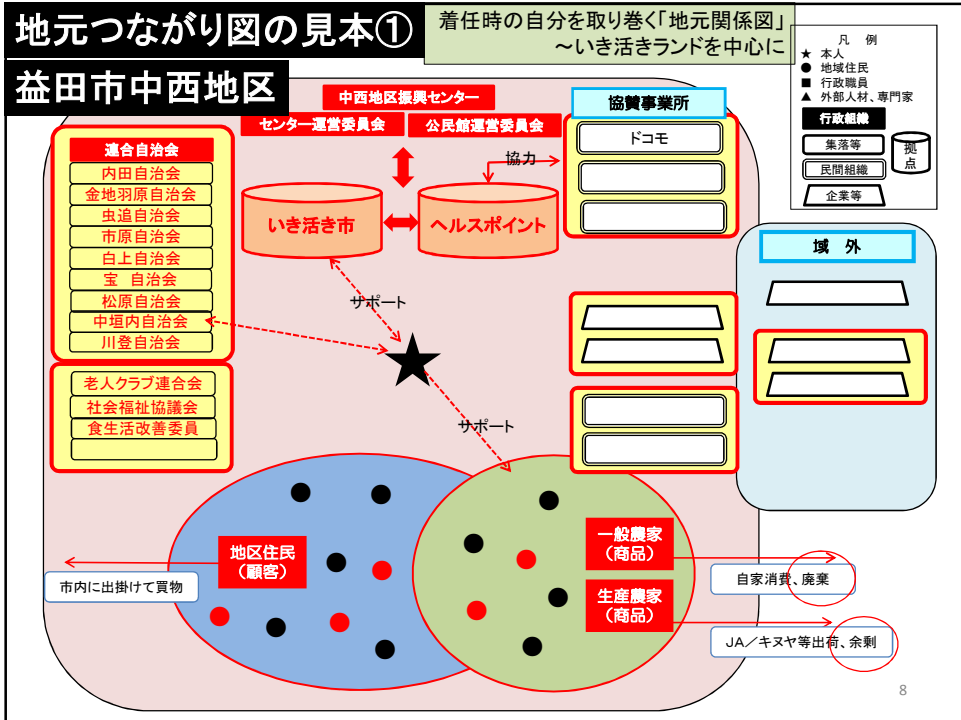
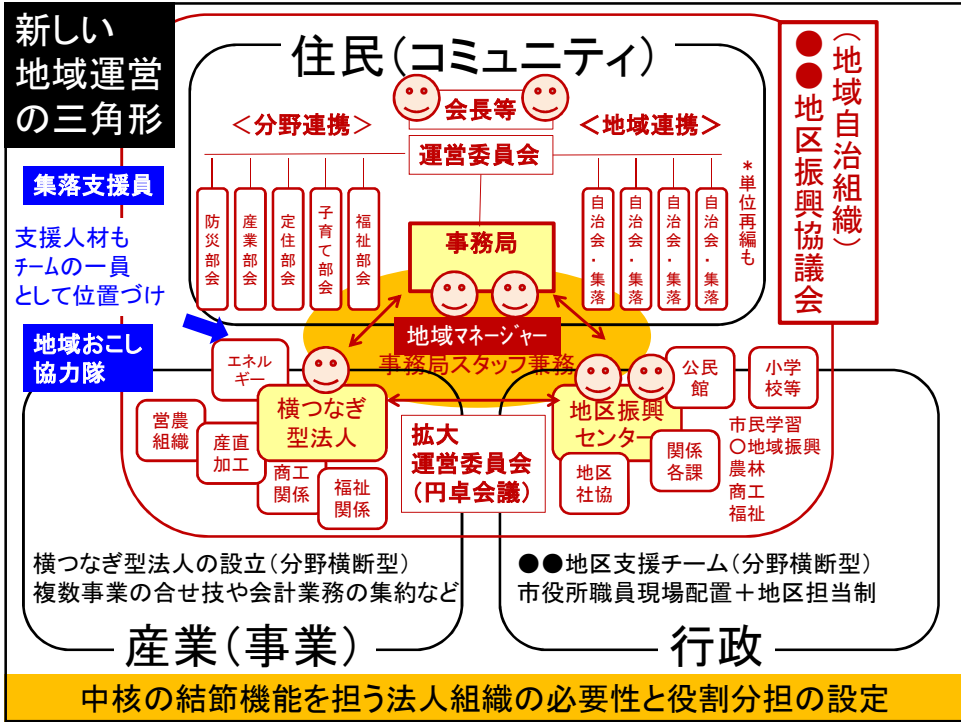


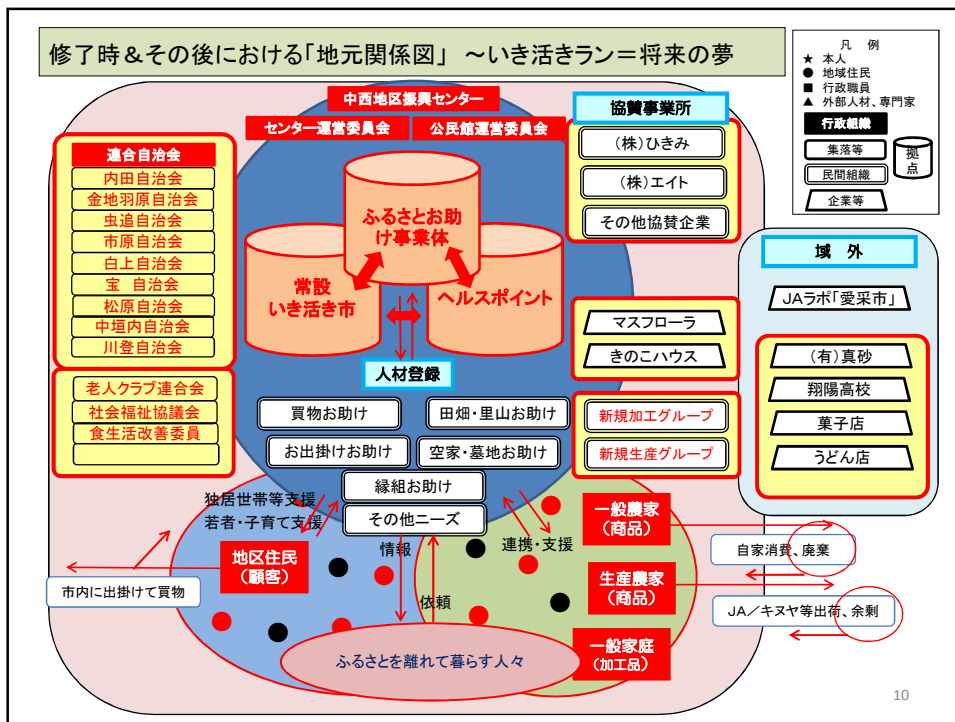
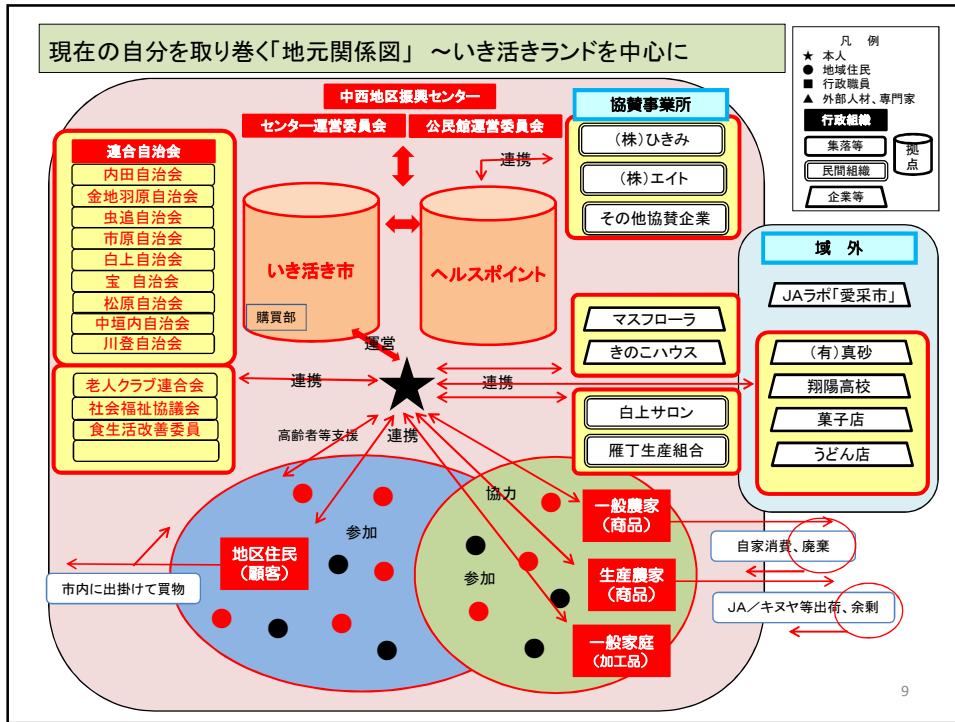
薪の活用

＜イングランドにおける1981~2002年の田園回帰
2002年現在人口 田園地域1,410万人、都市地域3,540万人＞

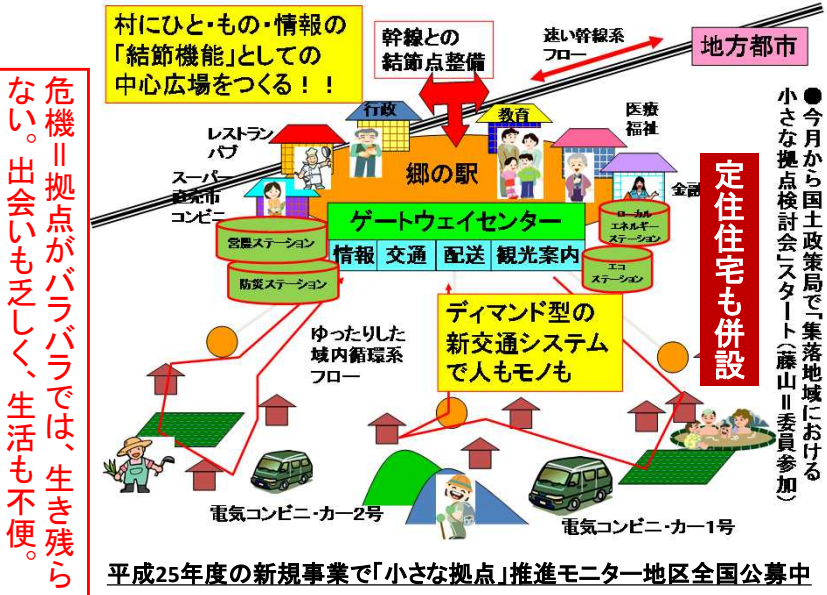








「結節拠点＝郷の駅を創る」

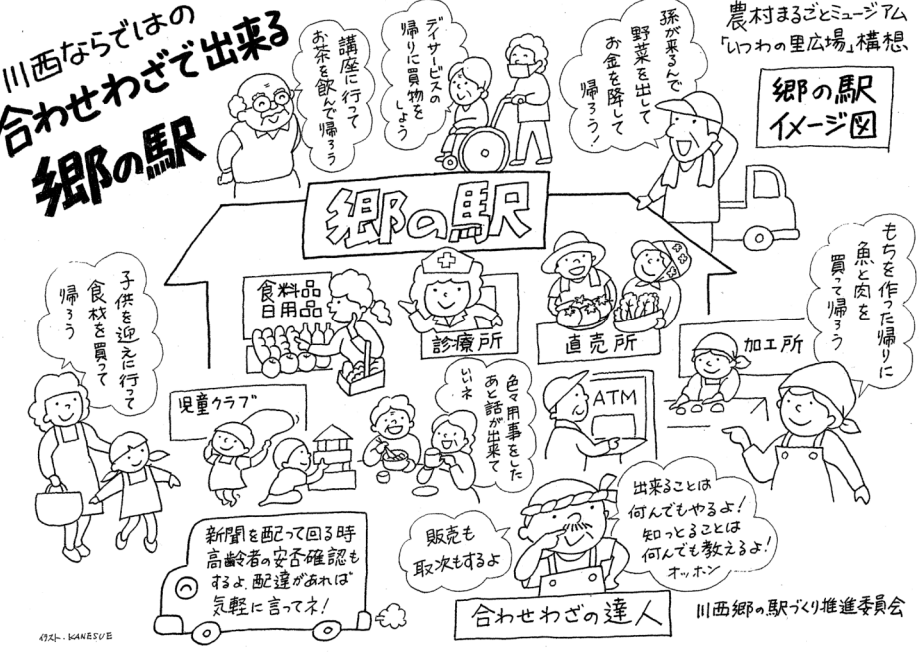


危機＝拠点がバラバラでは、生き残らない。出会いも乏しく、生活も不便。

行動＝コミュニティと暮らしと交通を結び付ける中心広場を地元で創る！

「合わせ技」の見本①

川西ならではの
合わせわざで出来る
郷の駅



「合わせ技」の見本② 雲南市中野地区「笑んがわ市」

事業分野

地域づくり

生涯学習

地域福祉

- ・JAの空き店舗を活用し、毎週木曜日に開催。
- ・産直コーナーは、地元生産者が作った新鮮野菜、JA果樹センターの季節の果物、恵曇漁港からの鮮魚販売。
- ・憩いのコーナーは、手作りの茶口やコーヒーが100円で飲み食いでき、楽しい語らいの場となっている。



自立運営

空き店舗活用×交流の場

↓
買い物支援×生きがい

↓
住みよい地域

13

事業名：(笑んがわ市 事業)

販売コーナー



14

事業名：(笑んがわ市 事業)

憩いのコーナー



15

「合わせ技」の見本③

住民出資の四万十市「(株)大宮産業」

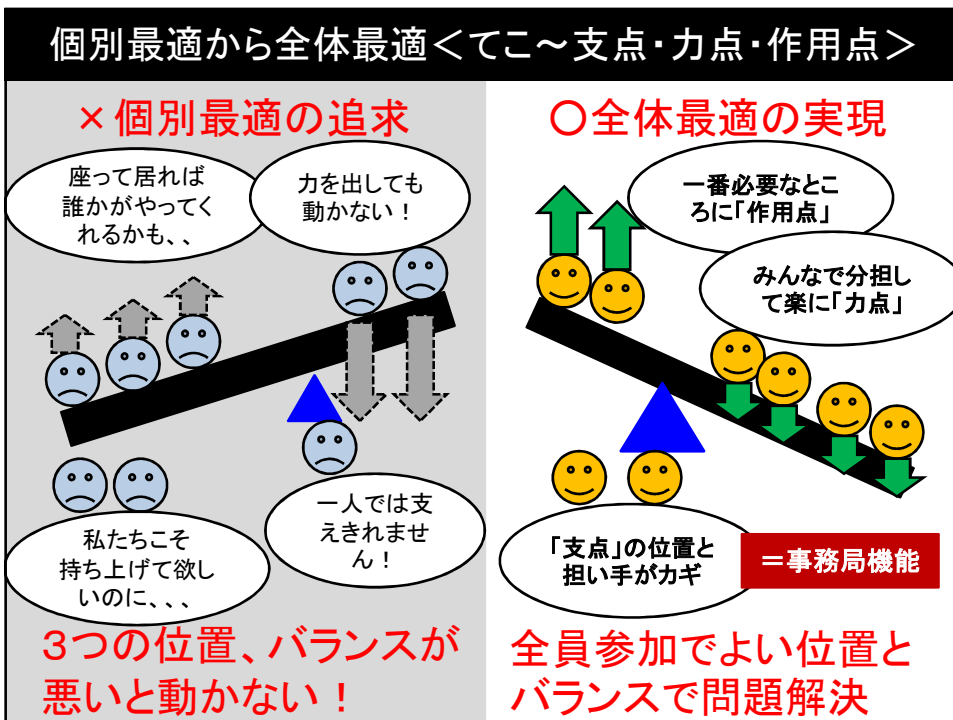
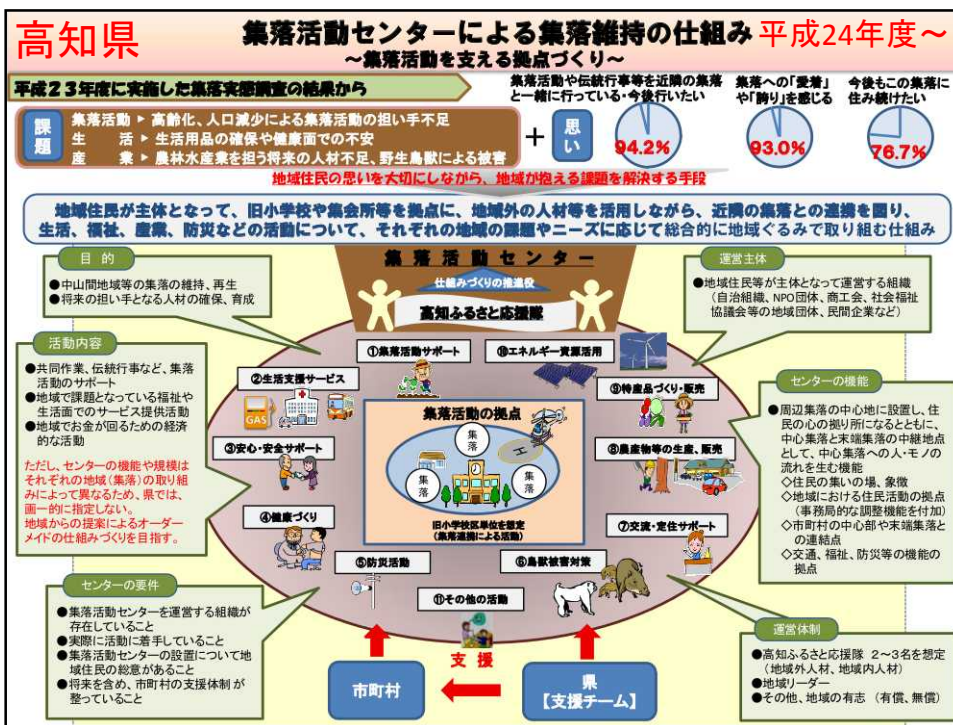


ガソリンスタンド
売店
肥料、苗販売
地元米販売
そして「たまり場」
を複合経営



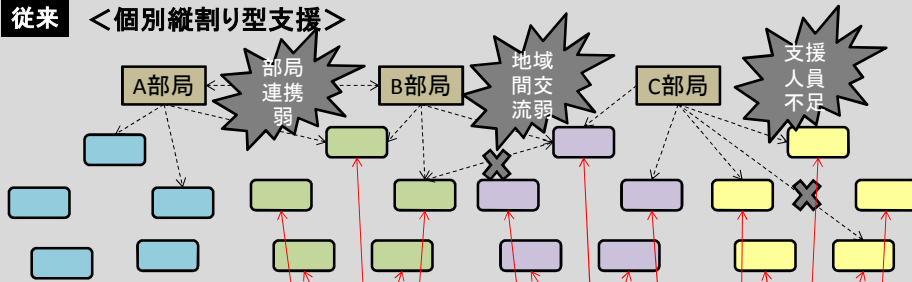
愛媛県との県境に位置する高知県旧西土佐村(現 四万十市)の大宮地区。四万十川の支流である目黒川に沿って家屋が点在する山間の集落だ。現在の人口は135戸301人、稲作を主にした農業が営まれている。この集落のほぼ中心に建つのが、小さなガソリンスタンドが併設された「(株)大宮産業」。住民の出資によって設立された共同売店である。

<写真も含めて出典 http://www.jimototaberu.net/report/15_01.html>



地域同士の連携、部会づくり「しまね郷づくり交流会(仮称)」

従来 <個別縦割り型支援>



① 同じような悩み、課題を共有する地区同士で部会づくり



カルテによる情報共有(同じような地区でこんなことをしている)

② 共同研修、相互視察、情報共有(先進事例集)等のサポート



今後 <横つなぎネットワーク型支援>

「山の5合目」までは一緒に登ろう!



2015年(平成27年)到達イメージ～沸騰、島根

- 過疎償ソフト事業 合計70地区！達成
- 重点支援地区 23箇所展開
- 実現メニュー一覧
 - 「定住の郷づくりプラン」 30地区
 - 「地域自治組織設立」 20地区
 - 「地域サポート経営体」 20地区
 - 「郷の駅」、「小さな拠点」 10地区
 - 「地区防災マップ」 20地区
 - 「移住の手引き」 20地区
 - 「地域資源ワークショップ」 30地区
 - 「地元学実施」 20地区
 - 「定住カルテ作成」 70地区



- 『地域防災』部会
- 『地域防災』部会
- 『定住の郷』部会
- 『広報誌』部会

しまね郷づくり交流会

ポータルサイト(ネット版カルテ、地域ニュース、おすすめ事例)